

安全報告書

2022



愛知高速交通株式会社

I ご利用の皆様へ

いつも東部丘陵線（リニモ）をご利用いただき、誠にありがとうございます。また平素は、私ども軌道事業に対してご理解をいただき、感謝いたします。

2021年度の輸送人員につきましては、新型コロナウイルス感染症対策として「まん延防止等重点措置」が実施され、リモート授業や在宅勤務の増加、イベント中止等の影響による利用者の減少により、約701万6,000人となりました。大変厳しい状況ではありますが、車両等設備の整備点検、社員の教育訓練など安全にかかわる取り組みにつきましては、これまで通りの水準で計画的に実施しているところです。なお、新型コロナウイルスについては、状況に合わせて、今後も必要な対応を実施してまいります。

事故等の発生状況につきましては、社員が一丸となって安全・安定輸送に努めてまいりました結果、運転事故が皆無であったのはもちろんのこと、お客様の死傷を伴う事故・輸送障害を発生させることなく、安定した輸送を確保することができました。

当社は、全線が地下・高架構造であること、全駅にホームドア・ホームスクリーンを完備していること、自動列車制御装置（ATC）でバックアップされた自動無人運転（ATO）であることなど、高い水準の安全設備を備えていますが、これに慢心することなく安全意識の一層の高揚を図り、さらなる安全性の向上に努めてまいります。

2022年度以降も、「安全はすべてに優先する」を基本方針として、社員一人一人が安全・安定輸送の確保を最優先に取り組み、お客様に安心して、信頼してご利用いただけるリニモを目指してまいります。

この報告書は、軌道法第26条において準用する鉄道事業法第19条の4の規定に基づき、輸送の安全確保のための取り組みや実態についてとりまとめたものです。皆さまからの声を輸送の安全に役立てたく、ご意見を頂戴できれば幸いです。今後とも、ご愛顧とご支援を賜りますようお願いいたします。

愛知高速交通株式会社 代表取締役社長
丹羽 健一郎

II 輸送の安全確保に関する基本的な考え方

1 安全基本方針

当社は、「安全はすべてに優先する」という基本方針に基づく「安全行動規範」を次のように定め、全社員が一丸となって安全確保に努めてまいります。

- (1) 一致協力して、輸送の安全確保に努めます。
- (2) 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともに、これを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
- (3) 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
- (4) 職務の実施にあたり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをします。
- (5) 事故・災害が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全で適切な処置を行います。
- (6) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
- (7) 常に問題意識を持ち、必要な変革に努めます。

2 安全目標

2021年度の安全目標は、「お客様には絶対にお怪我をさせない」ことを最重点目標として、安全で安定した輸送をご提供できるよう取り組んでまいりました。その結果、お客様にお怪我をさせることなく、また運転事故の発生もなく、「人身障害事故等の運転事故の防止」の目標を達成することができました。併せて、ヒューマンエラーに起因する輸送障害の発生もなく、「ヒューマンエラーの排除」の目標についても達成することができました。

2022年度の安全目標については、2019年度に発生した人身障害事故、2018年度に発生した係員の確認不足に起因する輸送障害を風化させないようにするため、「人身障害事故等の運転事故の防止」と「ヒューマンエラーの排除」とするとともに、重点実施項目のうち「列車出発時の安全確認の確実な実施」および「確認の励行と連絡の徹底」を「最重点実施項目」に掲げ、気を緩めることなく取り組んでまいります。

2022年度につきましても、お客様に安心してご利用いただけるように、安全であるとともに安定した輸送の提供に努めてまいります。

2022年度 安全目標

1 人身障害事故等の運転事故の防止

お客様の死傷を伴う事故は絶対に発生させません。

2 ヒューマンエラーの排除

係員に起因する事故及び障害をゼロにして、お客様満足度の向上に努めます。

重点実施項目（◎は最重点実施項目）

◎列車出発時の安全確認の確実な実施

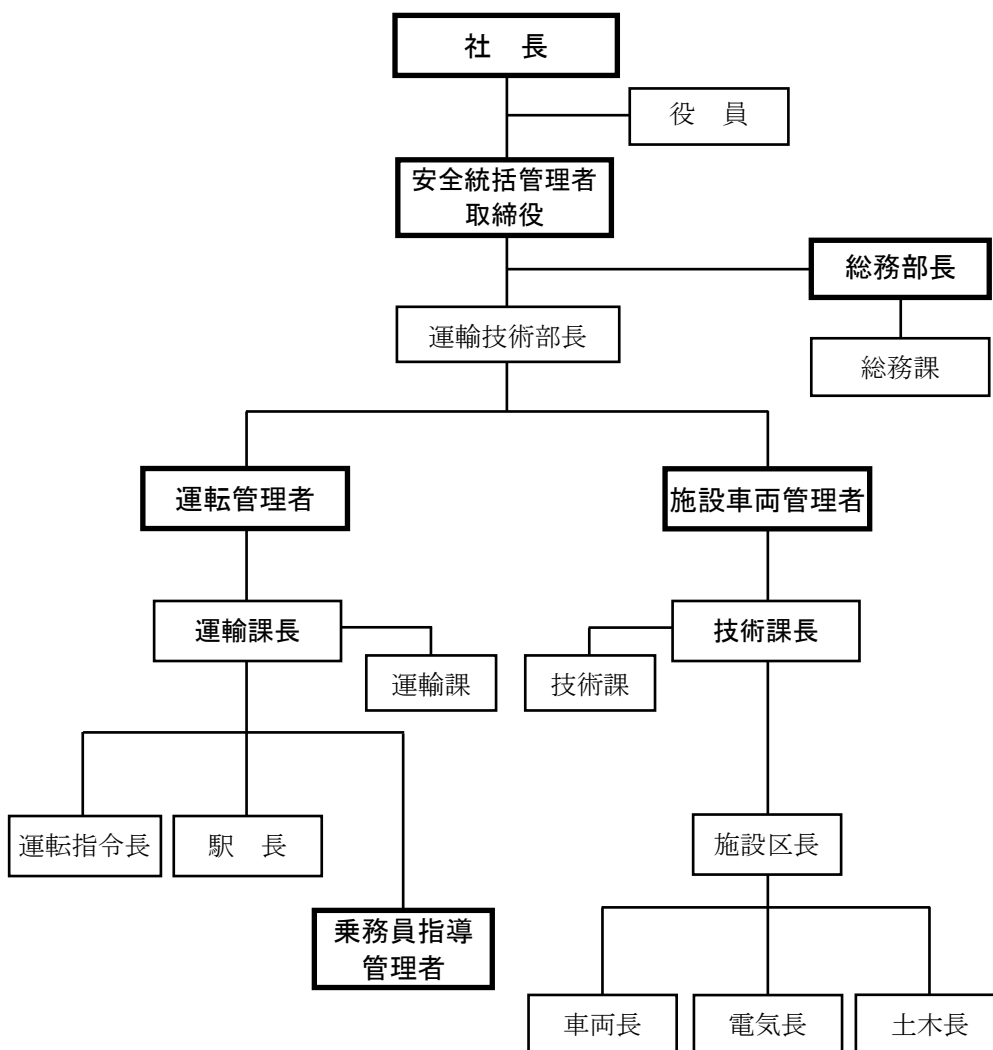
◎確認の励行と連絡の徹底

- 定期的な教育、訓練によるスキルアップと安全意識の高揚
- 作業状況、作業環境の見直しと改善
- ヒヤリハット情報の収集、分析、共有による事故の未然防止
- 保安設備、施設の計画的な巡回、点検、整備の実施
- 風通しのよい社内の環境づくりの推進

Ⅲ 安全管理体制と方法

1 安全管理の体制

社長をトップとする安全管理体制を、下記のとおり構築して運用しています。



責任者の主な責務

責任者	主な責務
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、操縦者等の資質の保持に関する事項を管理する。
施設車両管理者	安全統括管理者の指揮の下、軌道施設及び車両に関する事項を統括する。
総務部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

2 安全管理の方法

安全管理は以下の方法で実施しています。

項 目	内 容
事故防止会議	<p>「事故防止会議規則」に基づき、役員・部長・課長と各現場長を構成員とした事故防止会議を定期的を開催して、輸送障害や故障・トラブル情報、ヒヤリハット情報等を会議の場で報告し、運転と施設の管理部門と現業部門で審議することにより、自部門だけでは気がつきにくい問題点や原因の洗い出しをして、再発防止対策を決定することとしています。また、他社で発生した事故、輸送障害及びインシデント等についても当会議において審議して、類似事故・障害を未然に防止するために必要な対策を講じることとしています。</p> <p>事故防止会議は、原則として2か月に1回開催していますが、緊急対策が必要なトラブルが発生した時などは、臨時に開催することとしています。</p>
安全マネジメントレビュー	<p>運輸安全マネジメント制度におけるガイドラインで、自社の安全管理体制が有効に機能しているかを安全マネジメントレビューとして評価し、必要により改善するよう求めています。2021年度においては、前期9月と後期3月にマネジメントレビュー会議を開催して、運転部門と施設部門から重点実施項目の実施状況等について報告を行い、その結果に基づいて2022年度の安全目標及び重点実施項目を審議して決定しました。</p>
ヒヤリハットの取組み	<p>ヒューマンエラーに起因する輸送障害の発生をなくすためには、ヒヤリハットなどの事象についてもできるかぎり早期に把握して、対策を講じることにより事故の芽を排除していくことが大切であると考えます。そのため、社員から日常の業務の中に潜む「ヒヤリハット情報」を吸い上げて、原因やリスクなどを分析して必要な対策を協議・決定したうえで、水平展開しています。</p> <p>2021年度のヒヤリハット報告件数は8件でした。このヒヤリハット情報は、事故防止会議・運輸技術部会議及び安全衛生会議において情報展開するとともに、必要な対策を講じたうえで各職場へ水平展開して、全ての社員が共有するようにしています。</p>
異常時訓練等の実施	<p>毎年、交通安全運動や年末年始輸送安全総点検の期間中に車両故障や輸送障害を想定した対応訓練を実施しているほか、定期的に研修会を開催して、異常時における列車の安全な運行を確保できるよう、運転指令員や操縦者をはじめ係員の知識技能の維持向上を図っています。</p>

3 安全管理体制の見直し

関係部署の安全管理体制の取組みが構築され、その仕組みが適切に運用され、有効に機能しているかについて確認し、社内全体の安全管理体制を継続的に改善する仕組みを確立するために、内部監査を継続して実施しています。

2021年度の内部監査は、2022年2月に実施いたしました。その結果、不適合事項はありませんでしたが、軽度な改善処置について助言がありましたので、関係する管理者に報告し必要な処置を行うこととしました。今後も、内部監査を通じて安全管理体制が適切に機能していることを確認し、輸送の安全確保に努めてまいります。

IV 輸送の安全の実態

2021年度の事故等の発生状況

2021年度は、輸送障害が2件発生しました。その概況は、以下のとおりです。

なお、「重大事故」・「インシデント」・「災害」・「電気事故」の発生はありませんでした。また、監督官庁からの行政指導はありませんでした。

1 自然災害（雷害）

- ・発生日時 2021年8月23日（月） 7時34分
- ・場 所 東部丘陵線 芸大通駅～八草駅間
- ・状 況 中部電力で27万V送電線短絡故障発生（雷害）により、当社において瞬間的な停電が発生、中部電力の復電時に第705列車が芸大通駅～公園西駅間を力行中であつたため、八草下り線Δ1（過電流）が発生して電車線が停電、併せて芸大通変電所の回生インバーター故障も発生した。また、藤が丘駅の分岐装置5基、愛・地球博記念公園駅の分岐装置4基、車庫の分岐装置5基でCPU異常による故障が同時に発生した。このため、電気指令員は故障確認作業をしたのち、8時03分に電車線の再送電操作を行って復旧、停車中の各列車を順次運転再開した。
- ・影 響 等 運休8本、遅延本数8本、最大遅延34分
- ・対 策 変電所故障発生時の支障時間を短縮することができるよう、変電所設備対応表を作成したほか、併発する可能性のある保安装置の対応表も作成し、常時、電気指令卓に掲示することとしました。併せて、電気指令員の対応教育を実施しました。

2 分岐装置故障

- ・発生日時 2021年9月8日（水） 10時01分
- ・場 所 東部丘陵線 八草駅構内
- ・状 況 八草駅構内において、第1000列車（自動運転）を引上げ2番線から上り本線へ入換するため、#704分岐装置が反位から定位に転換する際、当該分岐装置が非常停止し進路を構成できなくなった。このため、運転指令員は施設区係員を現場へ派遣するとともに、運転中の各列車を最寄り駅で停車させて運転を見合わせた。（駅間停止列車はなし）10時16分に施設係員が八草駅到着、電車線を停電して線路内にて復旧作業を開始し、当該分岐装置を定位に転換して固定、当該分岐装置は終日定位位置で使用することとして復旧した。10時40分に電車線を送電し、停車中の各列車を順次運転再開した。
- ・影 響 等 運休8本、遅延本数7本、最大遅延36分
- ・対 策 原因を調査したところ、#704分岐装置のモーターリレー動作による過電流保護動作により非常停止したものと判明しました。当該リレーは、9月7日終列車後の夜間作業（日付けは9月8日）にて交換したものでしたが、初期不良により交換後の確認転換も含め、約60回の転換で故障が発生しました。このため、9月8日終列車後の

夜間作業（日付けは9月9日）で#702・#704 分岐装置のリレーの再交換を実施し、交換後は100回程度の転換テスト及び動作電圧、動作電流測定を行いました。今後は、機器交換を実施した場合は転換テストを100回程度行うこととして、機器の初期不良に対応できるようにしました。

ご利用のお客さまに、ご迷惑をおかけいたしましたこと深くお詫び申し上げます。

V 安全確保のための取組み

1 人材教育による安全体制の確立

東部丘陵線は、無人自動運転（一部の列車で手動運転または添乗します。）を行っていますが、車両故障等が発生した場合は、操縦者による手動運転が必要となります。このため、操縦者の養成を計画的に行っており、2007年度6名、2008年度2名、2009年度3名、2010年度6名、2011年度4名、2012年度6名、2013年度3名、2014年度1名、2015年度5名、2016年度3名、2017年度3名、2018年度3名、2019年度3名、2020年度3名、2021年度3名の操縦者を養成しました。なお、免許取得後は定期的に教育訓練を行っています。

2 保安設備の計画的な整備と点検による安全対策

東部丘陵線には、列車が安全に運行できるように自動列車制御装置（ATC装置）、自動列車運転装置（ATO装置）、車両と運転指令室との間の双方向のデータ伝送・音声の伝送装置、ホームの監視装置、車両に電力を供給する変電所の遠隔制御装置等と、これらを総括する運行管理装置を設けています。

運転指令室では、大型の画面で集中かつ効率的に監視し、列車の運行、変電所、車両の状態、そして各駅の駅務機器などを総合的にコントロールします。また、全ての駅のホームには、ホームドア及びホームスクリーンを設けて、お客様の軌道内への転落防止を図っています。なお、安全対策として、ホームドアの上部にレーザーセンサを設置して、列車とホームドアの間に人の取り残し等を検知した場合は列車を出発させないようにする「出発時支障検知システム」を導入したほか、列車を緊急停止させるための「非常停止ボタン」を藤が丘駅のホームに増設し、2020年度より使用開始いたしました。

これらの保安設備が安全・有効に活用することができるよう、計画的に整備点検を行っています。



運転指令室

3 緊急時訓練の実施による対応力の向上

運転事故発生など不測の事態を想定し、社員が一丸となってお客様の人命救助と併発事故の防止を最優先とした体制を確立して対応できるよう、計画的に訓練を実施しています。

2021年度は、全社員を対象とした「列車乗込み及び非常脱出装置取扱い訓練」、運転指令員と操縦者を対象とした「連結・推進運転および本線での入換訓練」等を実施しました。このうち、「列車乗込み及び非常脱出装置取扱い訓練」は、社員が通勤や業務で列車乗車中に、災害や故障等でお客様の避難が必要な事態が発生した場合に、安全で迅速な対応ができるよう、全社員を対象として定期的を実施することとしています。

緊急時対応訓練は、今後も計画的に継続して行い、社員のレベルアップを図ってまいります。

2021年度に実施した主な訓練・教習は次のとおりです。

列車乗込み及び非常脱出装置取扱い訓練	対象者：全社員
駅設備取扱い訓練	対象者：施設区員
携帯用油圧ポンプによる救援準備訓練	対象者：施設区員
分岐装置手回し訓練	対象者：施設区員
自動火災報知設備復旧取扱い教習	対象者：施設区員
保守用作業車異常時訓練	対象者：施設区員
連結・推進運転訓練及び本線での入換訓練	対象者：運転指令員、操縦者
施設区夜間異常時訓練	対象者：施設区員
テロ対応訓練	対象者：操縦者、案内係、駅係員、運転指令員
運転指令研修会	対象者：運転指令員

○列車乗込み及び非常脱出装置取扱い訓練（2021年4月20日・21日・22日）

・大規模地震の発生や車両故障等により駅間に停止した列車から、乗り合わせた社員または駆けつけた社員がお客様を安全・迅速に最寄駅まで避難誘導することができるように、列車乗込み手順と非常脱出装置の取扱い訓練を実施しました。あわせて、異常時に関するペーパー試験を実施しました。



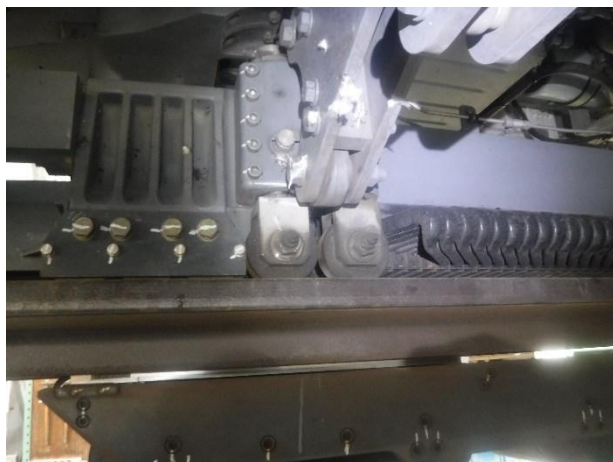
○駅設備取扱い訓練（2021年6月15日）

・施設区において、区員の全員が点検整備できるように、駅設備（非常停止ボタン、ホームドア、非常扉、スクリーンドア支障物検知システム、非常電話）の教習および取扱い訓練を実施しました。



○携帯用油圧ポンプによる救援準備訓練（2021年6月15日）

・故障により油圧が低下した車両を救援するため、携帯用油圧ポンプを使用して非常用ローラに油圧を供給するまでの設置準備・取扱い訓練を実施しました。



○分岐装置手回し訓練（2021年7月20日）

・車両基地において、分岐装置の転換不良を想定した手回し訓練を実施しました。

○自動火災報知設備復旧取扱い教習（2021年8月30日）

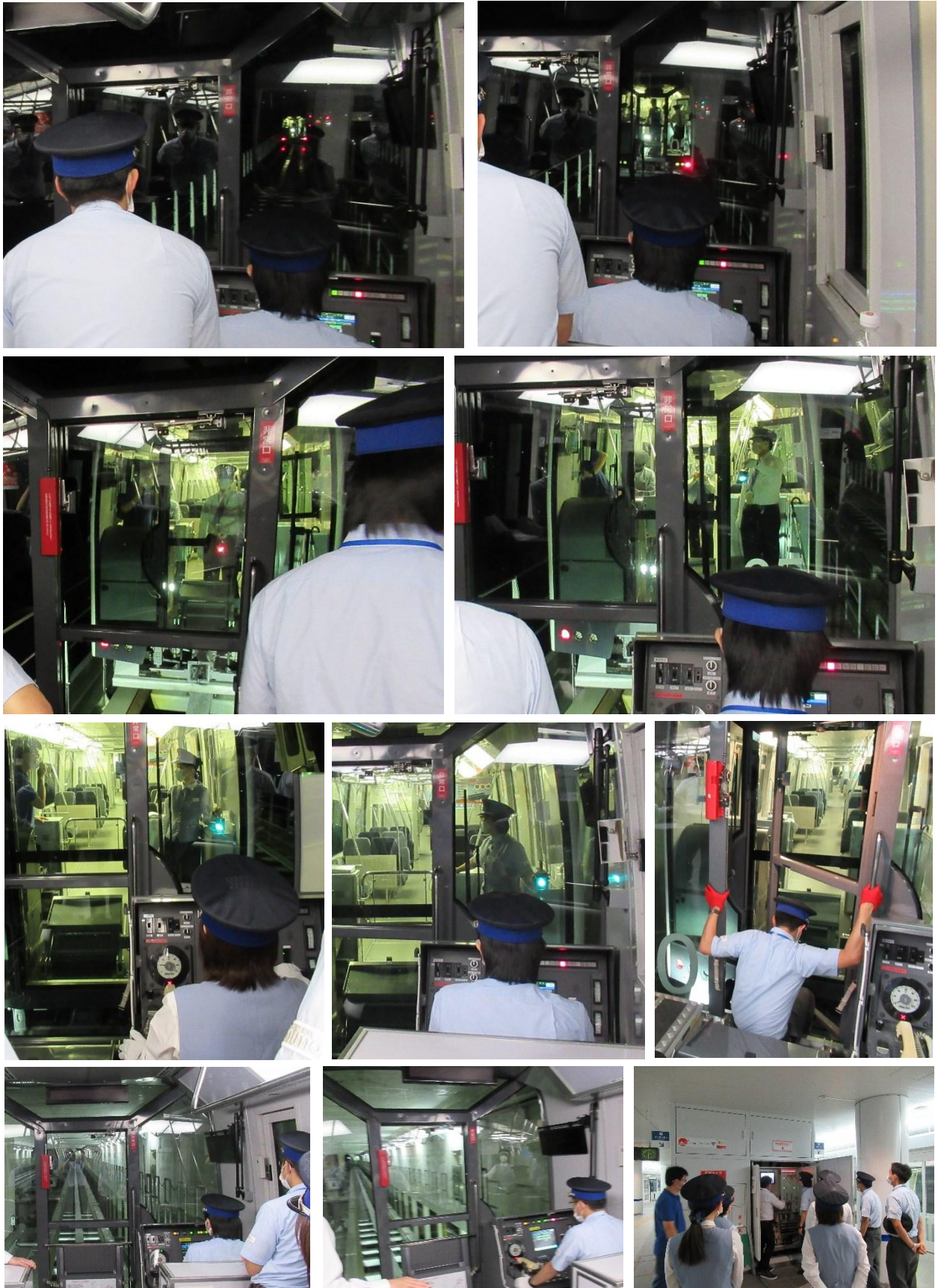


○保守用作業車異常時訓練（2021年9月6日）



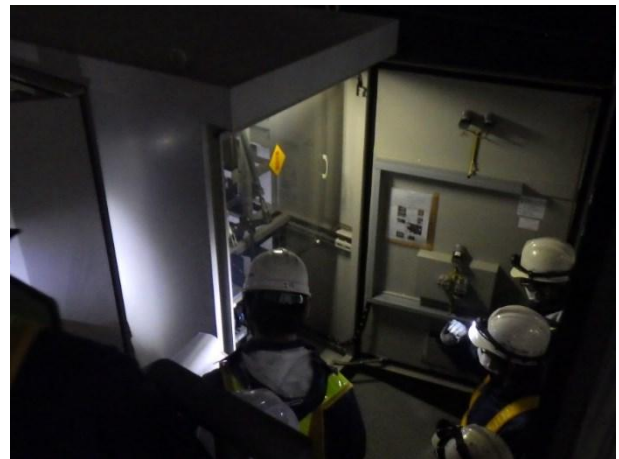
○連結・推進運転訓練および本線での入換訓練（2021年10月8日終列車後）

・駅間で故障停止した列車を救援するため、後続列車と連結して推進運転により藤が丘駅まで回送する訓練を実施しました。解放作業後は、藤が丘駅にて本線を使用した入換訓練を実施しました。



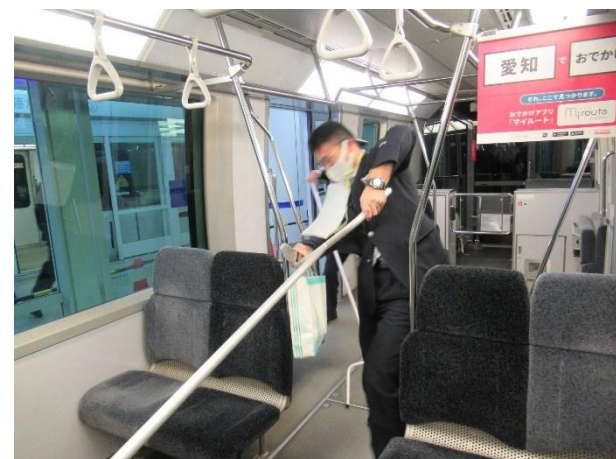
○施設区異常時訓練（2021年12月16日終列車後）

・営業時間中は行うことができない断路器の操作や、軌道内のセクション位置の確認等について、夜間訓練を実施しました。



○テロ対応訓練（2021年12月14日・15日・16日）

・車内またはホームにおいて刃物を持った人物を認めた場合の対応方について訓練を実施しました。



4 テロ対策

テロ対策として、国土交通省などの指導の下、次のように取り組んでおります。

- (1) 不審物の発見等に関するご協力のお願ひ放送を、駅及び車内で随時実施しています。併せて「不審物を見かけたら…係員・警察官へご一報を！」及び「安心してご乗車いただくために」(下図)のご案内が入った時刻表およびティッシュを作成して、お客様に配布しています。



Linimo 愛知高速交通株式会社 <http://www.linimo.jp>

- (2) テロ対策の一環として、「特別警戒中」の腕章を着用した係員による各駅構内の巡回を定期的
に実施しています。また、駅係員をはじめ施設区員・清掃係員は「警戒中バッジ」(下図)を着
用して業務を行い、不審物等を発見した場合やお客様から情報提供を受けた場合は、速やかに
関係向きへ通報することとしています。



VI お客様との連携

1 お客様への情報提供

列車の運行状況等に関する情報は、各駅の案内放送装置及び電光案内表示装置によって提供しています。なお、運転見合わせ等のダイヤの大幅な遅れが発生した場合には、ホームページでもお知らせをいたします。

2 お客様の声

お客さま、地域の皆さまからのご意見やご要望等は、電子メールをはじめ、電話、文書等によりいただいております。できる限り速やかに対応するよう努めています。2021年度は20件のご意見やご要望をいただきました。

3 お客様へのお願い




リニモは自動運転を行っているため、車両のドアやホームドアの開閉も自動で行われます。このため、ドアが閉まり始めてからの無理な駆け込み乗車はなされないよう、くれぐれもご注意をお願いします。また、小さなお子様は手をつないで列車にご乗車ください。

緊急時に係員へ連絡が必要な場合は、ホームとコンコースに設けてある「インターホン」、もしくは車両の乗降ドアに隣接して設けてある「お客様用インターホン（非常通報器）」をご利用下さい。運転指令員と直接通話することができます。

万一、走行中の列車内で火災が発生した場合は、次駅まで運転をいたします。他の列車は最寄りの駅で待機させます。火災を発見したお客様は、安全な車両に移っていただき、車両に備え付けの「お客様用インターホン（非常通報器）」で運転指令員に連絡して下さい。また、各車両には消火器を備え付けていますので、危険のない範囲で初期消火のご協力をお願いいたします。運転指令員は、火災発生連絡を受けた場合、次駅まで運転を継続する、もしくは係員を派遣するなど状況に応じた適切な処置をとりますので、車内放送に従って落ち着いて行動して下さいますようご協力をお願いします。

お客様用インターホン（非常通報器）と消火器は、下図に表示した位置に備え付けています。



凡例：  消火器、  お客様用インターホン、  乗降ドア



お客様用インターホン

4 お問合せ先

当社の安全に対する取組みや、安全報告書に関するお客様のご意見・ご要望は、下記でお伺いしております。

愛知高速交通株式会社 総務部総務課（土日祝日を除く 10:00～17:00）

電話：0561-61-4781 Fax：0561-61-6221

メール：soumu@linimo.jp

愛知高速交通（リニモ）ホームページ

<http://www.linimo.jp>